

折に触れ 四字熟語

NO. 72 『落花啼鳥』 らっか ていちょう

< 意味 > 自然・天然の風情のこと。咲き誇っていた花の散り落ちるさま、また、散った花、鳥のさえずる声の風流な味わい。

< 出典 > もうこうねん しゅんぎょう 孟浩然「春 曉」

| 春 曉 | | 孟浩然 | |
|-------|------------------------|-------------------------|----------------------|
| 春眠不學曉 | 春眠 | <small>あかつき</small> 曉 | を覚えず |
| 處處聞啼鳥 | <small>しよしよ</small> 処処 | <small>ていちょう</small> 啼鳥 | 聞こゆ |
| 夜來風雨聲 | <small>やらい</small> 夜來 | 風雨 | <small>おと</small> の声 |
| 花落知多少 | 花落ること | <small>いくばく</small> 知多少 | ぞ |

通 釈：春の寝ごこちよさに、夜明けになったのも気づかず、うとうとしているとまくらべのあちこちから、鳥のさえずりが聞こえてくる

(意識がしだいにはっきりしてくるにつれて) 夕べは雨風の音がひどかったようだがあの嵐では、花がだいぶやられたであろう (これで今年の春も、もう終わりだ)

語 釈：「処処」あちらでも、こちらでも。至る所 (まくらもとの)。「夜來」夕べ。

一 言：花シリーズ その2

「春眠曉を覚えず」で皆さんよくご存知の詩の中の一節です。

参照文献：角川書店「中国名詩鑑賞辞典」 岩波書店「四字熟語辞典」